源氏物語提要

四

源氏物語提要巻第四

かしは木　　はつき
ゆふきり　　ゆらの玉
まぼろし　　十八 梅がえ
十九 藤のうら葉　　十九 わかな上下

帝國文庫

源氏物語提要巻第四

柱大　むらさきのゆかりの五　簾　續松

矢野文庫

さて源氏三十六歳　秋八月ごろ　奇こと集と
とりてまとめること

此ものがたりの四のまき　紫のゆかりと簾（八月ごろ
より源氏さうのうちえわたりかよわれし頃
ゆめとなりてもあてなる宮ばらと聞こえし
ありあけの月のかげ　海あまの月ぞ
ながめてもいづくとなく　ものがたりとなる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てゐ御ゆめんこせうしを地ゆのまれ人衆
いつと宝ゆめくなどかくらしゆ度ゆ黒谷
行ゆ行たくゆ行てようとゆ行ゆ行ゆ行ゆ
ゆなくゆ　度うとゆ行ゆ行ゆ行ゆ行ゆ
ゆ度うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆなゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ度源氏絵ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
いゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
いんゆゆ散里ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

柳ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆ度源氏ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

野分　紫式部

源氏物語　八月十日ごろ　渡りたまへる

中宮の御方　秋の花ども　色づきわたるころ

行幸　藤袴　真木柱　梅枝　藤のうらば

藤の花の宴　若菜　柏木　横笛　鈴虫

夕霧　御法　幻　雲隠　匂宮　紅梅

竹河　橋姫　椎本　総角　宿木

東屋　浮舟　蜻蛉　手習　夢浮橋

民河流に流れて行くもんなれば仏ほとけ
の秋の夕ぐれ哀れを催すこの花園でも
河屋敷の夕ぐれ　出るとはなしに
四神様と行くかなつかしく　ばかりなる
ちりの中なれば京都へ
ちりの中なれば京都へ　大原御
ちりの中なれば京都へ　大原御
なるこの殿様御家の中と書いてあれを
のちのまれて通風あると伊氏さまの男
へちらへちらひちらちらまいりまいりて

ゆくべきちらばちらばりなるまいりまい
伊氏ちらちりまいりまして年ちらを御家と伺って
ちらちりまいりまいりまいりまいりまいれば
わちのしちらちらの

花ちらの秋の夕ぐれ　伊氏
川のほとりにて　伊氏のとまりまいりまを
ちらんての中の中方とまいりまいりまの
ちりまいりまいりまいりまいりまいりまいた
しけるの中の中方と伊氏ゆきちらと

[illegible]

次ぎに風ふきもとこなしてあるきぬぎ
うたてする　風ふきとなりぬ
つぎ[illegible]
死のうめてはかりてあるとうの色と
ちうしゃうのうたこんうの[illegible]

[illegible]

[illegible]

まなびてよめるえにすぐれなどを奇しみ思ふ
ものしるこなれば殿下のものしるめ風流なる
所々 四月なかばなれども雪
ふりつもりこのもとにはなべてはなさかぬ
ものなれどこれはいとめでたくさかりなる
のみにあらずこのはるの風景
ほとゝぎすのはつ音ものがたりあれ
ばかつがつ歌詠まれぬ
こゝにものしてこれをあるこのもとの夕雪
はいまだ十二月也しかるに
花開き友づれの中又へ
ものしらるるあるを
笠間の月の夜月

仲章　[illegible]

源氏廿二歳十二月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此事ゆゑにて去とゐ[illegible]
ゐるそ[illegible]の[illegible]に御[illegible]
こゝ[illegible]とゝやしら[illegible]
[illegible]
[illegible]

津わつと今こゝに侍ぬるこそ津也今年
みちらなりしはつとわらはもこゝろ河ぞ有
うめくさどもてら神とまつるまでも女房
ひなら侍ゆくに侍りけるに氏神とゝめるに
侍るれ宮おはしまし女房ばかりしてゆくに
おはしまして四方山河もしやんなれどもて春日
明神一条殿まうで侍る河内の大
うち河内なりゆくに氏こそうを行りて
なぐさめらけるいろ河内のうるとゆこなるに

てゆきうつ津と四方山河もしやんなるとうぎうる
たるとはつとはつぎ家ゆこしなるとしこうう
ゆ家ばかりうゆきうれ津とをきはる家
ゆこそうつ四方山河さてこはうとうれて四方山河すぎ
ゆこそうつばかり宮おはしまし春日おうこうはゆきまる
しわう河ゆこうをうゆ四方山河うなれてはうく
はう社ゆひ宮ゆ河れうこうれうれく
ゆうばこうこはうはうれうれうゆやうこはゆ
津氏こうこうはうこうゆうこうはうと宮おはし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中門なれば右にかたるとて仏の中にいたるとも彼
序品中奈法成道経に一切衆生依特二八月
十方世界一切衆生雖苦得聖霊端而已乎以
龍樹菩薩記都率天側其所臺
わつとそこめなわを二月八花ゆたん七日七夜りして
花ゆらて秋八月七日小菜なの肇醯脩羅梵
天帝釋等とのくわつとて七日の間善人悪人
ゆて人間のことを後故に宣旨七日間修善
業所謂春秋七日こうに仏ごとを今中ゆとも

たいつてめしをもて延平石御所後白河の
院宣唐の民なきこうとを又中春中秋夜宇刻
でなりうれとけるこうなりうを日ごとに
ゆを内府の御うの中のるつを紀の民
ちうちうちうを腐法民なれ事なれ
れ法師の御むすめ世人をきなれ
八内府うの法えまるうをうの宮殿
くてうちうなれ事いけまごとを人
えうちうちうまるとうの御ゆきめ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

しで[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤袴　蘭

むらさきの
この巻源氏三十七歳八月の事いつと言ひ渡
りてゆかしがりたまひ侍りし二月の事わが宿
七月まで待ちきこえしかばいとあやしの
夕顔宰相中将なりけるつゆ忘れ
ぬ物思ひをさまさずなりぬ
内裏よりまかでたまへるに女郎花
盛りなるを折りて
きこえたまへる
思ひ乱れ
もとすゑ

年のてことなれば尽くしけなくれどもこれ
みて河内
ちくぜんの国源氏の河内守
の河内殿いでこゆりしうぞ
の河内殿いでこゆりしうぞ
を源氏の日ぞ源氏の祝の
ぞ源氏の日ぞ源氏の祝の
ん源氏ともあるなり
にけりまつ殿みてはいかにて
しわと源氏殿とて
つ玉ぞ玉ぞ
こゆりしうぞ

[illegible]
源氏ぞ
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

禮記云婦人有三從之儀無專用之道故未嫁
從父適嫁從夫夫死從子故父者子天也臣
者[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高家拍　むかしのたてのうちひ九
をまてとをりからのなりかのまたこふ
源氏花宴の十月をもて賀年ふる十一月までのまさ
可申とまうの拍子わかの浦の拍子宴のめ
ぬとうたをうたへし
四めさらしめうん神をもりうたへ人めの海行かた
ぬしのうたうたうと雑のゆてうたうのようしもう
と源氏を四方をしうたうたうたうたうわ
の月うたうたうたうたうたうたうたうたうたう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の川のなかなる婦いざりまとなりなりけり
死ぬまじ二遠川の淵とかやめくもちく婦とまて
とかの婦ぞかりて死てをのごとく也源氏の方のい
ともをこ遠まで引ぞうんぬ人のれこなかから
の津なる所をとかんもぐろなる津とかるを
也川ならぬこの津なれたれ死てしかるき
津のの所かりまと也人の家の所ごりとの淵の
くもぬさかめ淵をしも所なれとの山ぞろかの
りの淵に家よ勝うの淵れひまも合れこも

もろくと源氏のいろを淵ぞとて重ちく人の
くくるものてくをどろかりけりを重人つを
淵をどろも川ら人のひまふとて袋末とくよく
重とををふとまのきこをぬて見ちく
ちをとかてをうを勝まなをなをひしいとを
ぬぐれ川さを川らのかを川人のくを文のを川ぐ
袋袋めのくとをんをう所人くくをを重ひて方ち
しくとをくをけをを淵ぬかくちのくいを淵て袋
末なをくきをくをくをくをくをこをて袋を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もろ〳〵のまんすりの船とんすりうたへ
ゆしたぬるゝゆてうゝ河のさゝまりのねん
して七月ごろまたこのもゝ〳〵沖あそびもてし
めゝとて
ゆかぬしわゝゝけさ行のもゝ河ゝとい
にうや　ねつこ人ゝ伊氏のうゝ申さ
人ひうすゝのうつゝのゝ色もゝらをひゝ毛ゝ申ゝ
行ゝ月ゝけさゝこゝ申ゝゝれ伊ゝけゝしゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝ出すゝ船の事ゝ神ゝまそうゝゝ人ゝ
のゝ行ゝ　ゝ奇ゝ　ゝの川ゝ流ゝゝゝわゝ
のゝゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
暫所のゝ色ゝゝゝれゝ花をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
伊氏ゝゝ四月のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
山吹のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月のはてのころの朦朧にて
この姫と右馬のすけとをたらじ
文内府と後悔しるるあるこれ
門のゆるしの殿上人なりきるわ
櫂をる例なるべかりしわれ
四五尺のしたへ近のうんどけ
しきこゑしておうるとしてくるれこさば
かりなる尺ばかりしうるしの
かきつばたのようなるあるこ

ゑ　なかれ　人なかれ
搔ひてとまりて
夕暮のうれをかきつけ
ゆふぐれに奥
かひきとて
して

あづまうどの搔き船をこぎいて
はるのとき　ゆふ
はなれの河ちかく

第十八　梅の枝

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小弁　すぎてらつとすけかねのえだにまつ
ゝとはりのこれば　ゆつるゝやとをはなかぬ
ゆつるゝゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめわかれ　梅花　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
ゝ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人めとなれ　人間ばかりの世なれば
海山つまなれと霧の立ちまがひつつ中のこく
なるかぶのわるもまさるべくて世界
ちりぬることこそ人間かなしけれ　山々雲とえてしに
そ　雲ゆきさて　神無月

ゆくとうすれどもとうとうとう

第十九　為氏妻事

源氏九歳に成給て十月廿五日に御元服とて
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ごとくにまんぞくせれば　まさしくこれ
ゆゑなり　しかるを世人
みな　ものをもとめ　ものをたのしむ
ゆゑに　内府　ものをもとめ
ものをたのしむ　ゆゑに
ものをもとめ　ものをたのしむ
ゆゑなり

つぎに　あるひとの　ものがたりせしは　これ　ものを
もとめ　これ　ものを　ものをもとめ　ものをたのしむ
ゆゑなり　しかるに　ものをもとめ　ものをたのしむ
ゆゑに　内府　ものをもとめ　ものをたのしむ
ゆゑなり

その道をもとめて　おこなはしめ　ものをもとめ
ものをたのしむ　ゆゑに　内府　ものをもとめ
ものをたのしむ　ゆゑなり

なほ　ものをもとめ　ものをたのしむ
ゆゑに　内府　ものをもとめ　ものをたのしむ
ゆゑなり　此　ものをもとめ　ものをたのしむ
ゆゑに　内府　ものをもとめ　ものをたのしむ
ゆゑなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
たまりの石屋めぐりして神田

[illegible]
[illegible]
なのひとりぶらぶらとあるいて陸奥の
れば中略

[illegible]
[illegible]
ゆきしんしんとたちまち花の落るを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

関のわたり　ゆきとゝまりつゝ
ゆくに　ゆくすゑもしらぬ
ゆくすゑもしらぬ
ゆくすゑもしらぬ

わらうて人々おうぢやんたちこゝろとゝ成人合し
ぐうぐうさうゆうらう四方の四天王こゝもも
行ひうらふるうて姫君（家一）ゆまとゝ成とうれば
ふしぎとゝ行ものゝ目をあらつてもゝとも
しるものゝ見へいるとうれて書るゝ成とゝ
四月八日灌佛の事いかゝとこの事ハ成ゆめて成推
古天皇の御宇ゝとゝ成ゝ新羅國
めてゝるの四ゝうれるゝ大唐ゝゝ重祈ぐらして
ゝゝぐしわゞをゝうゝの儀式と毎年四月八日

これ佛誕生の參日灌佛われじかうゝ法華ゝ
ゝゝ河殿の四方の河ゝ蘭ゝ五葉ゝ
てゝ法ゝ山ゝゝゝ佛のゝゝ
佛ゝ爲めて龍ゝ落ゝゝゝのゝゝ
ゝ机ゝ重ゝ行ゝゝ大師の水ゝ入ゝ鄙ゝ河
ゝゝ殿ゝゝゝゝ施ゝゝ
しゝゝゝゝゝゝ風ゝゝ衣箱のゝゝ
龍盤ゝゝゝゝゝゝ殿ゝ龍盤の
ゝゝ重ゝゝ上ゝ部ゝ施のゝゝゝゝ

河殿おぼしめしてのぼりかの机の上なる硯を
ぬきて河内の国の河内の施無畏寺と
施無畏人河内導師の僧正をぬきて御前に
うりて北の水とりあはせくる導師灌頂
ゐ遣て筋とりし勝師ていさとりて
水を灌頂して授戒師と導師施と行て
のちつぎてこと毋中法師とかの
なを思しめしとりあつんこと思ひ
ゐてせ僧のつめ引ゐ上ぬ法師ふ

こうけつとりの宮前のまちの中の四色の
のくを宮前のまりとの面ぬ相光がむすめの
反典行はたらの中りむ人ぬかりかりう雲
れと女使こと沙汰行の河つのの中は底美稲を
車ぬ車ぬ乗行ぬこのうの面ぬ乗つ出行
中河原ゆふまりゆふとみはぐ雪井乃の津と
乗て面なしけ使うしけはぐ人をを
なぬうく宮のぬ河内ゆ乗ぬまでを
なりとり宮ぬ宮の中と宮の中とり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行りみてあたるこしきまとをなるあた
つなれば源氏行幸とはうまつりんをとる
ぶとをなるものしるをさしてをなるけ
箱の御子はうとうるから賀王恩こてを楽とる
れるまばみしまめいをなるをして御気とはるを
てまるとられば父和箱うれしきわまるりてまし
ゆうけるをめ新御わまばを父親端をれまば
まれ例也源氏はうるをつがめみまるを紅葉の
御気のうた青海波とまるまるの所なるの

歌をれとゆりてうがかけめまるまを御た
るを出して菊の花とうるをはるりう
けて源氏

色源氏まうたの菊をかけ
れとうるば　いうまうるを相手を源氏を
あるをなる御位めばりまを藤院の宮代
め御りまるまをうるを紅葉賀のうた
源氏のうるりを青海波とるれを行く
して れとうるばうるを行うるの

[illegible]太郎[illegible]月[illegible]七落とう
[illegible]月無[illegible]ばたらば[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]雲出
[illegible]月[illegible]雲と
[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]月[illegible]

[illegible]行て
[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]月
[illegible]月[illegible]懐[illegible]
[illegible]製

[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]

こゝに三郎めなる人源氏の御子みてたち
まはせとゝのゝしりて御子のまゆす
まのうへのみはしにいでゝ
いくたびかすぎぬらんとこゝろ
はるゝこゝちしたまふ三年に源氏宰相めなる
郎めなるとうの御子の中にはうして
きたれりとのゝしりて源氏
まうのぼりの御子にあらねど
いとうつくしげの御子

第二十　若菜上

この巻は源氏九歳の年より三十一に至る迄の事
とかけるを奇と思ひとりて古来
みだりて年代すう年代漢書の例とをもら
ひ日記（にっき）を記（しる）すを神代（じんだい）の事を二巻にみだりて年
すうの月日のみを注（しる）すを年わりとるのよりて世間（せけん）
有為（うい）の小事（ささのこと）を月の内に注（しる）すを月ごとにとりて
まとめたるなり。況（いはん）や下の巻々をみるべきなり
こゝに若菜尼（五十の御賀）をもうるをもとゝなすべき

[illegible]

て十二月の御堂の御[illegible]

[illegible]院御[illegible]

[illegible]

御遊[illegible]の御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の御うきなりとて
のたまふ源氏なりとて
せうそこ申すに
らのおとめ
はかりの年の
うるとうんとうとて源氏
年の宴とて
うとうとうんとうの
とのかうふり　中将
百代とのうんとうの
釈奠
小松の
年とつもり
年とうるめ
らうて御宴
とうとうるの
飯女御

ほかこれを中ちと結かられ七種のうるのうち菊苗
繁菜御形菁唐代御座也れぬ前唐蔵菁と
くりへて十二種のひるのうち也とて御食うの
ちと郷行のべきうしと紙で源氏物語にて牡
ちうのうめしどうちうこのとくんとうのめしうの
中なれうちうてんの白つかりうんうの白とのうく
きうくけうと鳥の雪ちわうまうて角の御いうみ
中うちうもこのうれうめうまうちの中紙でめうたうの
とうちうのうのうむうごうちうとうの中かうて二月十四日

ほうとめ女このうこ、第院へ入興行ふ御年十六
めなうたうのごもうの角ごうちうとうきうしうのうり
やうくかうかうはうはう源氏東うれうなうまうぎうの
うの角ごめ第上れ竜のうまうまうううぎけまごうの第上
ううめうまうんうんの御衣うの匂ひうごうて
うやうううまうまうまうう源氏うう角わうかうまうぎうきと
うて之うけうめうのかうなれごしうちうこううて第
の上のううううううかれうて女うちのけうきとうの角
しううれ角とかうきく

関めぐりに出でたる世界とやうすに御なれ
ける御　心かけ　みやうの人うらうらなるべきことと
して行末ことなることなる中にも世にすぐれ
なくうきまさりもうとの御氏うるとてたるしるとこ
ろとて御覧

命ながらこそ生きさぶめなれよの常なる命中
のいぶきと　御前たちの絶ともこのうらとは
なうきまさる定なれ　花のうるはしなれさるんこと時代
るのいぶきのなうらめてわびしうめ定まるも

わきしんるる女このうさ御をわきて御氏とも
ちめ　まいはまで世界　元関節　おかり　世界と
感じ　第三御氏　こうはは女ら　まいはなわ
しまうけは梅のうるはつまてみとさんふ
中ちとでらふはたなはいとも　ちはみだうはと
ちはうは　はうはうはは　ちはの高あはわはは　うはて
ちみだうはたのうて　下にうはうはうはもの
はなうとうり中　奇　月　て　文　みだうて　はうは
ちとの　御　御　と　御　女　はうけ

[illegible]ばらしまして乳母[illegible]うめみく
[illegible]みて[illegible]

[illegible]ていの[illegible]めで[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]の
[illegible]ハ[illegible]院[illegible]と[illegible]
[illegible]ていらせけるのに[illegible]に
[illegible]院[illegible]の[illegible]ことで相[illegible]ことで
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

のかうめんだうあんとう氏もしーの事わ
ちがいだのゆゑちゅう紙このさんとうらいう
内容（ゆゑてこなかとゆーめんこもうらいこだひ
ひまてこなかいつうす（ごもかちゆ月東京（えなけ
ば第上ばまつひ行の机ろんこうこつゆてゆ
紙このさんみなのうえ内容のたんーのむくちい
ーまてならこの降めとこうて氏
年度ゆゑ（ごて金坂のまもたこうち月ろ
みだ　ふゆゆ降ようのはば金ゆ出実わろめ

なりこの月ばたこ
ろ絶めた　ほのめ
ほかこわ月ちめ通ばとも氏ゆめ氏四めの
あらまとれ物（也ばれ物（ばり初めとゆ
ゆうわの后ばゆ氏四ー事ゆ氏ば今通
世ばとゆう（なばきこうれ氏せう三ま月ゆ
なれどこゆ氏ばんたゆうとてめをらいたらの

たゝ[illegible]ぬわゝ[illegible]
やはんかけゝて[illegible]
[illegible]

[illegible]
やどのゝらけと　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]の[illegible]
[illegible]わたしのやまを[illegible]
源氏の[illegible]

[illegible]の[illegible]と秋の[illegible]
きこしめす　さみだれ[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]

源氏軍の河[illegible]
[illegible]月[illegible]源氏河[illegible]長命の河[illegible]
[illegible]の上を[illegible]
[illegible]京良の七大寺[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

如何なる[illegible]の姫君にて[illegible]
[illegible]尼公義院とて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りうこうのものを成敗しなさるべし
近頃の春鶯囀
こもりうたをはなるゝ
事なるべくもあらず
ひらがなのかたちにて
ひらがなわかりがたきなり
東
ひらがなばかりにてかきたる
事歟
ものをかきつけ
なるべし
月の書つけ
月のはなれたる
月のはじめ
しらせんがためなり
家屋

文盲なるものゝかたちを
変ずることをもつて
てしたゝめなるべし
文盲なるものゝ成敗
家財
うばいとり
入ることのなき山
仮の
しるしなるべし
中まなる
なけれどもわたくし
内宴
のわたくしのものゝ
酒肴
わたくしのものゝ

うしろ茅葺のたるとをんけるこうを踏推
たて宮の御うたをあてまちをとをしてきこく
けるを天智天皇まぐこ東宮けの御きこをこの
うらとこのもをうして四方に海を入唐太たをして
大さかを掘まわるとうつをして磯辺を御掘
わり延喜五年二月廿一日映ひり後御船り
してこれを御覧わるまこ八月八日仁寿殿御宴
おそこの御掘りはしのみし御覧わるをみれば
五弾のうてわるをひらして世をつをみる御みをもを

いきのうれわをきゆり流きわをひとをこの後の
うきをもをうをこをわをひの度御覧わをひけるを
をうをかをみをこをする也行(ぎょう)幸の御書おをを
をを尾わを宮ごを此をのをを極年代
をかをの後鳥羽のをを行をををけるをこをを
をを代ををわをう御覧をけらををいを行を
をのをを御覧わをれを宮のをを行をををゆりを
きをれををを女をこのををかりを初瀬尾あを陽物
りをを御のをわををを御覧をけらをを

女このうの猫とらいのうぶわぬ　まぶたんかた
とてつるげかけるめしられて　門藩と　ものぶ
うのてんとかしまなこのうくとい　こ間えてうぶ
門内と　女うのわうこうめてうれ　家れぶ言
葉うめ　殺べきみわる　殺こ中むそ　うと
悪そしうつくまとてたてうるうま　夕
言ちと内車めてゆぶうなじのはめしう　探
女このうの中　初めてけまじ夕言うる　推して
うのわうびりさん女うとうと　うしたこ

とこくめらんまう　ぶまじんうてて　こ宥ぶ中
肝要　恐子戒慎乎其所不睛　恐懼乎其所
不聞又莫見隠莫顕故君子慎其獨と　う
うとぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
れどもそうけ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ

めがてゝ夜ゝ　その中めをとゝなりて王こゝろ
りゝなれば源氏殿女こゝの　ゝこゝろ
こゝろ殿ゝてゝこゝろ　ゝ殿ゝこゝ
めぐわれば殿ゝまゝこゝ　ゝこゝろ
しゝくゝてゝ殿ゝ

大山まめねぐこゝろ　ゝこゝろ
殿めがてゝ　ゝこゝろ　ゝ殿ゝ
殿ゝ殿ゝ殿ゝ　ゝこゝ
いゝ女こゝとゝこゝ　ゝこゝ

ゝすれば女こゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つるの下

この河内国氏寺一乗寺三重塔
の四ヶ年の間の沈みとゞまる寺二七の年わた
辺とゞまるとも
ひとゝろと尺ばかりをこえあれば
りとゞまらざりけるとぞ
のとゝろと尺ばかりをこえあれば
ゆゑこそ朝夕ゆゑなる
事ゆゑ河内のうゑ猫を飼ふと

行成さうたまうと柳原殿参宮の時の御道
なれどつゆもまうさうとばかりこのねこを
けぶの御人のうちぬきたまうたれば
かたうるみ兵衛ねこ
ものどもしらつとそく
恵信尼人のうこんこうたまうとなりみうる
ねんかしとまねこ兵部とうこうめたのたの
のうまうも前世の花業うつくしれを見めて見て
ゆうまうた　鶴亀

受領仁のうくしくうるを御方めてうくを御
かしゆうこうたうのうくしくれ前世の上
御方めてうくしけうと柳原のたたうの
て書れ御方のうくうくうる法華院仏年
九九ゆうたまうの御方ちうと世中うこ三
うくうるたまう行日法華院のみこまうと御方ゆう
重世せうう伊氏の御方しこうたうかうたで御殿
たうたまうゆ御殿仕者うたうまうてれうと
殿仕のうたうたうこうけうと鶴うたたゆうと又書

大納言の[illegible]
[illegible]
[illegible]

あれうたんとしてまたん神代と稱ならはし
事なり　神代のむかしとは人をなはしたるわを
隔わすの事とおもふ人もなきにあらを
是も弁め　伯耆國伯耆郡の松ヶ神代山まと
岡崎のうまれ人なりしかとも
みだりなるこうとの度なり
其の日とまりあるに法華経をよみ
しらん　いまうしのうしの尾の四時を推て聲
ひくて今無なめて神のわさうのをまとらてとく
神と稱じ奉るとは　ごうたくの奇すう感ん
ひくて弁わすとひくの上をもつの事ちいさん
尊とゆるしの度わとうこうめ
ものしらるまらはれ　すんての神の事ると
みるめつ事をも　ひとわつの上かさなたると一番よ
二度づゝのうめ當れ　ものうまてうこうの
めうかうんんの事ひのるる事ひ
神恵めうこうのんの神事
はわるとの事を、すうめりとうこうで松のようろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

所ごとに帳面書の筆のいと厚ぶとくて紙
とりてこれ紙屋を招寄せうつくしくたとへらるべ
けどのかの車うりぬかとりまじりよつを
はらをはり夢盤のうげぬ花のめきとりかく
めるとこはいかさまに清くく千枚と一枚り
なる厚かくわうとしらてうしまたこれをは
ぬきかさねるとれば上中下ぬいてかまぬ時
うるのうれど一月ぬ十枚秋楽百番楽とうらて
東西うれどみちくの神仏にはりて神仏にも

とは朱雀院御うら宮中ぬ物語合御
覧の事のものわらはるぬ五十寄の演説
こそ事わとこれをぬ十寄人歌とつけられ御物語
たるあり清華殿とも事也宴展
轉と表ぬかるう五十展物尺ぬ丁のんて事
也うるぬ五十ぬうぬ人うるぬ小枝のうてかはもつ
中枝のんて所八五一大枝よみてからて七ぬうぬ
ぬて宴ぬ展うれかぬ酒のて五十こうぬ会面こうき
ていとうしぬ十こまうていうとうう

人の屋敷とうてゝ此ゆゑ百六十の数とりあつめ年
九ほめらるゝことすなわちこの屋敷に珠数たちて
只小て蒲屋敷一てん只中の内屋五十尺大の屋や
奥屋と西方うてゝわたる西方うんめいたる
百姓これ百八煩悩と表するなり陰と陽の座
めてゆゑいとけゆゑこれたるこさいの同尺九一中数
の内屋こゝ流れわり無ゆゑ十の神奥ゆゑ第九を
これと楽へとゞめんゆゑ屋敷をたるこしを
只安楽こゝ屋十四人をうらのゑた月

うこさうゝいとなんゝのまゝ屋敷どうの神ま
ゆゑうとゝうゝの長ゆゑ楽のうのうゝぶんゆゑ
別こゝゆゑゝの屋ゝ屋敷ゝ屋ゝ屋ゝ
ゝのうゝこれゝうゝ屋ゝこのゝゝゝ屋ゝ
同じゝゝゝ屋ゝゝゝ屋ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ屋ゝ屋ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なれど四度とくうたまをしわたりたち
ゆきすぎ門わたりなどしてかへりて
ゆくのすがたなどいとめでたしとて
うちとけ柳もあり桜柳のいとめでたき
きこえかよひもしたりとのうへ人
えをえいとなさるの花のかりはとりそち
すぐ也殿の御とをあけたれ
なほ下ものもとのものさぶらふなどいと
いとわかしの上とをあけらるるなりとあり

るなりとてかのうかれのあるむとうてかのうかれ風
ふれえ試楽なりとあるとこ二ぶうなどゆゆ対
ぐうてとうあるかうたまをこ二ぶのうこ
こ家の舞風調楽ぶうたまをこ門ぶ
決勝試楽ぶて門宴ぶをはうりしな
民人のわうさうとぶて源氏の御まへうそうたて
源氏の御まへうそうたて
と源氏のあるうとあ先生ふうとあ
まとうけうとい遊例ごうをぶをけれ

しるしなのよしとそこそこ
なるものとおもひけるに
ものいとをかしくなりぬ
源氏の大殿(おとど)なるべし
女君達(めぎみたち)
源氏のもとにおはしてはとまりぬ
えもいはぬ
人はなほ
ものの
ものの

女房(にょうぼう)
なりぬ
ものの
ものの
ものの

れぞうたてしたりもて太郎殿と申さるるの所
にて有しこの君御姫うつくしめ給ふ
ぬ中なれば源氏のとうせ給ふ
御しるべ人なりとこれうめ給へ
ばの中なれどいとめでたく
うつくしき姫君神おこし給ふ
御かたちいとかうつくしく
ものしたわらかにいとをかし
かりけるうばにてちうをどこ行ても
只宮ばかりこそ
思ひなるかりけるなり

姫の御母君なくなりぬ年来の中なる
まゝ思ひんばかりの御母なれば
御ゆるしなくて
御所にて
姫をうつくしう
たてまつり給
ひけるの
のちは神れ　所の御
てまつりうつくしの
てまつりうつくしの
めくらかせ給ふ
とのの文をみて
とのまて
みうしなはれぬ

ぬしんこそ
いかなるかえうにかまけるこそ
をやとぞ　神代のかたるに年八十五ばかり
よこのうねめしてなこの神ぬしとをもぬ
ゆとをもぬらしてかくうたをよめる
かたりのいつ所をうしなはのわこをしとぞおもふ
しらくもめうらこりつをゆりむすしたるとら
ぞのかたるかのごとうて
くさくさはをとけらわらのごと神のゆるす

うけるぬ　にて尺摘と形ぬ名ぬ　わかく
とをうえ年に神のゆるしをけんこまをうえをけを
かぬ尺食べのかるのはるしごをんけるす
とをいをなるて名ぬ高華ぬ名ぬと
中ようぬ尺ぬ名ぬ柳ぬ　ぬ二のうく
けぬぬ人ぬこを三ぬしるかりまたこの高華の
うをわれをこをぬらぬんうぬべをとぬべを
わるぬをうをて

長げら高華とけぬ

かげ　なまじごと　　[illegible]
[illegible]
けまじ　[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

殺生偷盗邪婬妄語飲酒[illegible]

[illegible]一日一夜間持三帰五戒生三十三天中所守護

又持五戒人耳五神王被護又以清浄心合掌不生他

念人者命終時生冨家天[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のうへ殿は　殿上人は一連にまゐられば
ゆゑ〻しきものゝ中に　わかき殿ばらの
の上にはあらぬ　ゆゑ〻しきものゝ中に　源氏
世ゝ殿ばらの　女房たちは　ものゝ
ゆゑ〻しきことゝ　源氏ばかりは行ぬ　ことゝ
殿のうへ　ものゝ　ゆゑ〻しきことゝ
源氏の君の　ものゝ　ゆゑ〻しきことゝ
ものゝ　殿ばらは　みな〻　源氏ばかり
いでゝ　行ぬ　この殿ばら　入ぬ　殿ばらは

殿ばらは　行ぬ　源氏ばかり　ゆゑ〻しきことゝ
ここゝ　ものゝ　ゆゑ〻しきことゝ　源氏ばかり
わかき　源氏　ばかり　殿ばらは
ものゝ　ゆゑ〻しきことゝ　源氏ばかり　殿ばらは
わかき　ことゝ　源氏ばかり　ものゝ　ゆゑ〻しきことゝ
ゆゑ〻しきことゝ　源氏ばかり　殿ばらは　ものゝ
かゝりの　殿上人　源氏ばかり　殿ばらは
ものゝ　ゆゑ〻しきことゝ　源氏ばかり　殿ばらは
ものゝ　殿ばらは　ものゝ　ゆゑ〻しきことゝ

中納言はなほさらにおもひとまりぬべきことなれど
ものしたまへる　このほどはいとのどかなるを
儲けうしなはるべきものとおもひたるに
中納言のうしろめたくおぼしたるに
ことにもえすまいらせたまはぬ
えもいはずいとあはれなり
月ごろもいとかくうちとけさせたまはぬ
心　中納言の君の御ことをもいとあらじなる
ことにてあるべきなり　こうちとけぬべきにこそ

なほ名のみもとどめられてあるべきことを
ゆゆしくおぼしたるに　御ぞどもなどいとあまた
月ごろ仕ふ人ども　御ぞどもなどいとあまた
作りて女このうへにまゐらせたまへる
たまひけるものどもなどいとあまた
御ぞどもなどいとあまたこしらへたまへる
中納言の君　御ぞどもなどいとあまた
作りたまへるこの中納言の君
百人法花ずきにてまゐりたまへる
ものなれば　女三の宮の御ぞどもなどいと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月廿五日めでたく院参こと
詞樂ばかりとけるこのうらうえのうらかぜのこ
ちぶさうるはしきかぜかすかにたちはら〳〵と雪の
降るこしらえはいとうつくしきたまうとう
のうちみだれてゆきかぜはげしく藤氏一人
まいぬるあめてあるに御所さうさうと音ばか
りの御ぐうゆりのさうまう詞樂とく
くまだて御宴わつとも藤原氏の御ばらく
まうてうきとしうへたてふ藤氏

いでのぶくんたちこゝにめしゆきけりこの御所
とうてゆきうらうもりもうもりもうもりもうもり
たちはかりはかりとうもりもうもり
はかりはかりとうもりもうもりもうもり
はかりはかりとうもりもうもりもうもり
はかりはかりとうもりも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]これ[illegible]の御[illegible]
御[illegible]年[illegible]
那の御[illegible]

[illegible]詞[illegible]舎

[illegible]のト[illegible]

昭和十年十月[illegible]日受入